

## 2学期が始まって・・・

2学期が始まって二週間が過ぎましたが、各学校で、運動会の練習が始まっているようで、児童クラブでもそんな話がよく聞かれます。意識しない心身の疲れから、体調を崩しやすい時期でもあるので、児童の体調にも日々気を配って行きたいと思います。



## 運動会関係の連絡

各小学校の運動会の予定日や振替休日等は次のようになっています。

小学校名	運動会前日準備 (高学年以外は早帰り)	運動会当日 (送迎はなし)	運動会振替休日 (8:00から預かり可能)
時沢小学校	9月16日(金)	9月17日(土)	9月20日(火)
細井小学校	9月16日(金)	9月17日(土)	9月20日(火)
桃木小学校	9月22日(木)	9月24日(土)	9月26日(月)
芳賀小学校	9月22日(木)	9月24日(土)	9月26日(月)

### (1) 運動会当日の送迎について

学校によっては、運動会終了後に一斉下校となっている学校があるようですが、職員の勤務体制の関係から、**児童クラブによる児童の送迎はできませんので**、ご了承ください。

また、保護者の送迎によって運動会当日も児童クラブを利用することは可能ですが、出欠席の連絡を必ずメールでお願いいたします。

### (2) 運動会の振替休日の利用について

運動会の振替休日には、**8:00から開所します**ので、午前中からの利用が可能です。ただしその場合には、**午前保育料(600円)が必要になり**、翌月に引き落とされますので、ご承知おきください。なお、振替休日の利用についても、変更がある場合には、できる限り早くメールで連絡をお願いいたします。

## 児童クラブへの出欠席や遊び場利用の連絡についてのお願い

児童クラブへの出欠席の変更については、ほとんどの皆様にきちんとメールでご連絡いただいているところです。また、遊び場の利用(実施校のみ)についても、利用予定表で連絡いただいています。

しかし、時々、メールでの連絡が遅くなったために、児童の送迎に支障を来すことがあるのも現状です。**出欠席のメール連絡は、当日の正午までには、必ずお願いします**。また、**学校を欠席したり早退したりした場合にも、必ず児童クラブにも連絡をお願い**します。

### (芳賀小学校の児童の保護者の皆様へ)

芳賀小学校では、2学期から、下校時に児童が出発する方法を変えています。今までは、児童クラブの送迎より先に、児童クラブを利用していない児童が出発していましたが、2学期からは、**児童クラブの出欠席確認が終わるまでは、全校の児童の出発を待つことになりました**。それは、児童の下校後の安全確保のためですが、保護者の皆様からいただいた利用予定と、児童の並び方に齟齬がある場合には、保護者の方に連絡を差し上げ、確認ができるまでは、全校児童を待機させることとなります。このことから児童本人への確認を必ずお願いします。

また、10月13日(木)から「遊び場利用」が可能になるそうですが、遊び場の利用についても、**児童の判断による当日の変更は認めないこと**となります。

10月からは、「遊び場利用」の記載を、毎月お願いしている「利用予定表」にも**必ずお願いします**。また、利用予定表の遊び場利用の予定を**変更したい場合には、必ずメールにて連絡**をお願いいたします。お願いごとばかりになりましたが、ぜひよろしくをお願いいたします。

## 子育てのあれこれ No.16

学校から帰って来た子どもが元気がなくて、親としては、とても心配になることはよくあることと推察します。そこで今回は、そんな場合の子どもへの声がけについて、事例を通して考えてみたいと思います。

### 【事例】

学校から帰ってきた小学校4年生のA君は、いつもならば、「ただいま」と元気よく家に入ってくるのですが、この日は、母親の「お帰り」の言葉にも反応せずに、うつむいたままランドセルを置きに行き、自分の机のところに座ったままです。いつもと明らかに様子が違うので、心配になった母親は、A君のところへ行って、話かけました。

母親：「元気がないみたいだけど、どうしたの？」

A君：「・・・・・・・・」

母親：「何かいやなことあったんでしょう。学校で何があったの？」

A君：「・・・・・・・・」

母親：「黙っていても分からないよ。どうしたのかお話しして！」

A君：「・・・・・・・・」

しばらく同様のやりとりが続いたあと、A君は、B君とけんかして暴力を振るってしまい、先生にも叱られたことを泣き話しました。

母親：「どうしてB君にそんなことをしたの？」

A君：「・・・・・・・・」

母親：「B君には、何をされたの？」

A君：「・・・・・・・・」

この事例について皆さんはどのように思いますか？何か問題点は感じますか？

まず、事例の母親が、**元気がないA君様子を見過ごすことなく、すぐに反応できたことは、素晴らしいこと**だと思います。常に忙しくしている大人は、子どもが送っている小さなサインをついつい見過ごしてしまうことが多いからです。しかし、理想的な母親の対応から考えていくと、事例の母親にはいくつか問題点があると考えられます。

### 問題点①・・・A君への言葉かけが、少しずつ尋問や詰問に近づいてしまっている

A君を心配している母親の気持ちは痛いほどよくわかるのですが、「**どうしたの**」とか「**何があったの**」とかの**言葉ですと、必ず答えなければならない義務がA君に生じてしまいます**。A君からすると、答えたくない場合もあり、ただ「うるさい」と感じてしまうこともあるはず。特に、事例のように、自分が失敗してしまったことは、親には、できる限り話したくないのが普通です。それでは、母親はどのように言葉がけしたらいいのでしょうか？

例えば、「**何か元気がないね**。」「**いつもより暗い感じなんだけど・・・**」**ぐらいの言葉で、**答えを求めない言葉、しかも、元気がない様子にしっかりと気がついて心配してくれているんだということに気づける言葉がいいと考えます。「いつでも話を聞くからね」ぐらいは付け加えてもいいですが、高学年になるほど、多くの言葉をかけるのは逆効果になります。

親子関係がしっかり築けてさえいれば、時間はかかってもいつか子どもから話してくれるはず。それでも心配な場合には、友達や学校の先生から情報を集める方法もありますが、その場合は、子どもに気づかれないようにすることが必要です。重大な問題のときは、学校からも連絡があるはず。

### 問題点②・・・自分の行動を正当化するきっかけをつくってしまう言葉かけになっている

親はだれでも、自分の子どもの言い分を信じてしまうのが常で、それが親心というものでしょう。特に、友達とのトラブルの場合は、相手の子の方が悪いと思いたくなくなってしまいます。事例の母親の言葉かけは、B君に何かされたはずだということが前提になってしまっています。まずは、「**B君にけがはなかったの？**」という言葉かけが、最初で、あとは、**B君に暴力をせざるを得なかったA君の気持ちをしっかりと受け止めて、「それはつらかったね。でも暴力はいけなかったね。」で終わらせるのが最良**と考えます。

子どもは、**あまりにも問い詰めていくと、自分の行動を正当化していってしまうという傾向**があります。答える相手が親だったり、その場にいなかった大人だったりした場合には、「自分に都合のよい答えを探して、自分を正当化する」のが、普通の子どもです。しかし、それがあまりにも繰り返されると、「うそをつく子」に育っていってしまう危険性があります。

(参考文献) 「『心の基地』はおかあさん」「子どもの能力の見つけ方・伸ばし方」「親がすべきこと・してはいけないこと」(平井信義)、「頭のいい子より賢い子を育てるしつけ方」「アドラー博士が教える『失敗に負けない子』に育てる本」(星一郎)、「学校で出来ること出来ないこと」(外山滋比古)、「子どもの発達とつまずき」、「しかるが育てるもの」(高野清純)、「ホソネの教育論」(橋爪俊明)、「子どもがのびのび育つ叱り方、ストレスになるほめ方」(加藤諦三) 他